

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
酪農専業 (牛乳)	乳牛 経産牛 30頭 育成 15頭 飼料畑3 ha 転換畑2 ha 自作地3 ha 借入地2 ha 農場副産物 1頭当たり 51,000円 労働力 家族 2.5名 うち主たる 従事者1名 雇用・ヘルパー 各1名	所得 645万円 労働時間 4,050時間 成牛換算 1頭当たり 135時間 家族労働 3,750時間	[資本装備] ・トラクタ(一部共同) 45・80ps ・ロータリー、ブラウ ・ハロー、播種機 ・プロットキャスター ・マニウスプレッダ(共同) ・コンハーベスター(共同) ・モアコンディショナ(共 同) ・ロールベラー(共同) ・ラッピングマシン(共同) ・グロブ(共同) ・ダンプカー、バキューム2 ・コンプリートフィーダー ・堆肥1,000m2(共同) ・尿処理施設 (バクテリア気・液肥化) ・牛舎500m2 ・育成舎、飼料庫、 サイロ ・細霧装置、扇風機 ・ハイラインミルカー ・バルククーラー(1t以上) ・運動場500m2 (乾乳・育成用) [技術内容] ・つなぎ・ハイライン ミルカー方式又はフリー ストールベラー方式 ・TMR方式採用 ・牛群検定の利用 ・WCSイの活用 ・ラップ体系 ・牛群管理パソシステム ・カコンフォートの採用	・飼料生産機械の 共同利用 ・自給飼料生産基 盤の団地化 ・未利用地活用 ・転換水田活用 (集団連携) ・雇用労働活用 (ヘルパーほか) ・簿記管理改善 ・預託等の活用 ・自給飼料増産 ・飼料生産省力化、 外部化(コントラクター) ・堆肥化耕畜連携 等の協同化 ・複合部門の導入 (肉用牛) ・地域営農等への 貢献 ・家族経営協定の 締結	・ヘルパーの活用 ・給餌、搾乳システ ムの合理化 ・育成管理方式 (隔離、カウハッチ) ・食育・体験農業等 の受入 ・コントラクター等による 地域労働システムへ の参画
【算定根拠】					
<p>農業粗収益 - 農業経営費 = 農業所得</p> <p>2,931万円 2,286万円 645万円</p> <p>1 品目 (酪農専業) 6 単位規模当たりの労働時間</p> <p>2 規模 経産牛 30頭 成牛換算1頭当たり135時間/年</p> <p>3 生産量 経産牛1頭当たり8,570kg 7 1時間当たりの雇用労賃</p> <p>1,000円</p> <p>4 単価 114円/kg</p> <p>5 所得率 22%</p>					

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
肉用牛専業 (肉用牛)	交雑種肥育 115頭 出荷頭数 80頭 (70%) 稲ワラ収集 20ha 飼料畑3ha (ロールベール 体系) 自作地3ha 労働力 家族 1名 うち主たる 従事者1名 雇用 1名	所得 563万円 労働時間 1,725時間 1頭当たり 15時間 家族労働 1,500時間	[資本装備] ・肥育牛舎 ・育成舎 ・堆肥舎(共同) ・農機具庫 ・トラクタ(一部共同) 45・80ps ・ロータリー、播種機 ・プロトキヤスター ・マニュアルレクター (共同) ・ロールベール(共同) ・ラッピングマシン(共同) ・グロブ(共同) ・ダンパー ・牛衝器 ・細霧装置、扇風機 ・運動場 [技術内容] ・国産ワラ事業 (ワラ収集) ・WCSイネ活用 ・グラス体系 (ロールベールサイレージ 又は乾草) ・牛群管理パソコシステム ・導入先の安定化	・飼料生産機械の 共同利用 ・自給飼料生産基 盤の団地化 ・未利用資源活用 ・水田活用 (集団連携) ・雇用労働活用 (ヘルパーほか) ・簿記管理改善 ・導入先酪農との 連携 ・自給飼料増産 ・飼料生産省力化 ・外部化(コントラクター) ・堆肥化耕畜連携 等の協同化 ・家族経営協定の 締結	・ヘルパーの活用 ・給餌システムの合理 化 ・共同事業等への 参画 ・定期休日の確保
【算定根拠】					
$\text{農業粗収益} - \text{農業経営費} = \text{農業所得}$ $5,111 \text{万円} - 4,548 \text{万円} = 563 \text{万円}$					
1	品目	肉用牛専業 (交雑種肥育)	8	単位規模当たりの労働時間	1頭当たり15時間/年
2	規模	販売頭数	80頭		
3	肥育開始月齢	10ヶ月齢	9	1時間当たりの雇用労賃	1,000円
4	出荷月齢	27ヶ月齢			
5	肉質等級	B3			
6	生産量及び単価	肥育牛1頭当たり			
		780kg×63%×1,300円=	63.8万円		
7	所得率	11%			

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
(観光農業) イチゴ + 水稲	ハウス 3,000㎡ 1 ha 労働力 家族2名 うち主たる 従事者1名 雇用1名	所得 520万円 労働時間 4,618時間 家族労働 4,000時間	[資本装備] ・育苗ハウス ・ハウス ・トラクター ・畝立機 ・一部高設栽培施設 ・暖房機 ・自脱型コンバイン ・施肥田植機 ・乾燥機施設一式 } 共同利用 ・トラック ・かん水設備 ・観光受け入れの附帯施設一式 [技術内容] ・ウイルスフリー苗 ・食味及び観光に向く品種の採用 ・天敵利用 ・防除ネット ・ミツバチ交配	・入園者及び入園料の設計管理 ・リピーター確保 ・観光イチゴ農園の地域集積化 ・パソコンによる顧客管理 ・入園者の評価測定 ・家族経営協定の締結	・休憩室の充実 ・雇用条件整備及び福利厚生 ・各種保険の加入 ・パートの導入
【算定根拠】					
農業粗収益 - 農業経営費 = 農業所得 1,256万円 736万円 520万円					
1	品目(作型)		6	単位規模当たりの労働時間	
	観光摘み取りイチゴ			イチゴ 1,500時間/10a	
	水稲(含む直売)			水稲 11.8時間/10a	
2	規模		7	一時間当たりの雇用労賃	
	観光摘み取りイチゴ	3,000㎡		1,026円	
	水稲	1ha			
3	入園者・生産量				
	観光摘み取りイチゴ	4,000名			
	イチゴ	4,000kg/10a			
	水稲	5,490kg(549kg/10a)			
4	入園料・単価				
	イチゴ入園料	平均1,200円/人			
	直売・一部市場出荷	平均1,000円/kg			
	水稲(含む直売)	212円/kg			
5	所得率				
	イチゴ	44.4%			
	水稲	18.8%			

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
農産加工 (餅加工等 + 水稲)	餅加工 ・切り餅 ・丸餅 ・のし餅 赤飯 五目おこわ 水田 3ha モチ0.8ha ウルチ2.2ha 労働力 家族3名 うち主たる 従事者1名	所得 543万円 労働時間 5,400時間	[資本装備] ・加工室 ・ボイラー ・餅つき機 ・餅切り機 ・さまし台 ・セイロ等加工器具一式 ・トラクター ・コンバイン ・田植え機 ・乾燥機施設一式 ・軽トラック [技術内容] ・農産加工技術 ・餅加工の仕上げの タイミング ・適正な冷却時間 ・見栄えのする商品 作り ・ご飯物蒸し上がり 時の水分調整 ・朝市、直売所での 販売対応	・良質原材料確保 ・商品のバリエーション化 ・安心感ある商品 管理 ・個性ある商品ア ピール方法 ・パソコンによる 顧客管理 ・周年製造販売体 制 ・年末需要への対 応 ・衛生管理の徹底 ・商品表示の徹底 ・リピーターの確 保 ・売り切る販売方 法 ・家族経営協定の 締結	・定休日の設定 ・更衣室の設置 ・給料制導入 ・PL保険の加入
<p>【算定根拠】 農業粗収益 - 農業経営費 = 農業所得 1,029万円 486万円 543万円</p> <p>1 品目 農産加工 水稲</p> <p>2 規模 水稲 3ha (モチ0.8ha、ウルチ2.2ha)</p> <p>3 生産量 モチ(加工後) 6,584kg(823kg/10a) ウルチ 12,078kg(549kg/10a)</p> <p>4 販売量 餅加工 3,292kg(0.4ha) 赤飯 1,646kg(0.2ha) 五目おこわ 1,646kg(0.2ha) 米 12,078kg(2.2ha)</p> <p>5 単価 餅加工品 1,000円/kg 赤飯 1,400円/kg 五目おこわ 1,300円/kg 米 212円/kg</p> <p>6 所得率 52.8%</p> <p>7 一日当たりの労働時間 7.2時間</p>					

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
水稲専作 水稲 + 加工等	水田 30 ha 加工 ・米麴 ・あられ ・甘酒 ・みそ ・みそ受託 集落農家 30戸 うち主たる 従事者2名 (30haを4 人で耕作)	所得 1,040万円 (主たる従事 者2戸) 労働時間 8,000時間	[資本装備] ・トラクター ・コンバイン ・田植え機 ・乾燥機施設 ・トラック ・加工室と関連施設 ・発酵機と圧力釜 ・みそ摺り機 ・セイロ等加工器具 一式 [技術内容] ・30ha規模の省力機 械化作業体系 ・収穫期間は1か月 ・水管理を除く管理 作業は組織で行う ・麴力の高い麴作り ・バラエティーに富 んだ味づくり ・パッケージの工夫 ・見栄えする商品化 ・みそ熟成温度管理	・品種別の団地化 ・経理の一元化 ・集落での農用地 利用の合意形成 ・加工品周年販売 ・良質原材料確保 ・地域個性ある商 品アピール ・パソコンによる 顧客管理 ・周年製造販売 ・年末需要の対応 ・衛生管理の徹底 ・商品表示の徹底 ・リピーター確保 ・付加価値商品の 開発 ・直売所及びネッ ト販売対応 ・農産加工の体験 ・組織の利益は、 集落農家で分配 等	・集落営農の展開 ・更衣室の設置 ・定期的休日確保 ・PL保険の加入 ・菓子製造許可 ・みそ製造許可

【算定根拠】

$$\text{農業粗収益} - \text{農業経営費} = \text{農業所得} \quad (\text{主たる従事者1名当たり})$$

$$4,431 \text{万円} - 3,391 \text{万円} = 1,040 \text{万円} \quad 520 \text{万円}$$

- | | | |
|------------------------|---------------|-----------|
| 1 品目 | 5 所得率 | 23.5% |
| 水稲 | 6 一時間当たりの雇用労賃 | |
| 加工 | 水稲 | 1,600円/時間 |
| 2 規模 | 加工 | 1,100円/時間 |
| 水稲30ha(29.9ha、もち0.1ha) | | |
| 米麴、甘酒、あられ、みそ、みそ受託等 | | |
| 3 水稲収量水準及び単価 | | |
| 549kg/10a、212円/kg | | |
| 4 販売量 | | |
| 水稲 164,700kg | あられ | 400kg |
| 米麴 1,250kg | みそ | 9,600kg |
| 甘酒 450kg | みそ受託 | 2,500kg |

7 集落営農の前提条件

- ① 集落に30haの水田があり、集落の全農家30戸で営農組合を構成。主たる従事者2戸の自作地6ha。
- ② 加工売上は、米麴100万、あられ60万、甘酒32万、みそ672万、みそ受託75万で算定。
- ③ 水稲及び加工に必要な機械・施設を営農組合で装備する。
- ④ 営農組合に集落内の30haの農地を集積し、耕作する。

営農類型	規模	所得及び労働時間	生産方式	経営管理の方法	農業従事者の態様
水田農業 (水稻 +麦 +大豆)	水田 60 ha うち自作地 9 ha うち借入地 51 ha 水稻 40 ha 麦 20 ha 大豆 20 ha 労働力 主たる従事者 4名 雇用 3名	所得 2,187万円 助成金 1,360万円 含む 労働時間 6,240時間 うち 基幹労働力4人で 4,896時間	[資本装備] ・トラクター 30ps 1・90ps 1 ・側条施肥田植機 6条 2 ・コンバイン 6条 1 ・畦塗機 1 ・ドライブハロー2.4m1 ・乾燥・調製施設 40ha規模 1 ・トラック 2 t 2 ・フォークリフト 1 ・スクユットレンジャー 1 ・サブソイラー 1 ・プロトキャスター 1 ・ドライブハローシーダー 1 ・ブームスプレヤー 1 ・ロータリーカルチ 1 ・大豆コンバイン 1 ・大豆乾燥機 5 t ・大豆選別機 1 [技術内容] ・移植栽培 ・収穫期間を1か月と る計画的な作付け ・機械費の削減	・長期間安定借地 ・圃場の団地化 ・ブロックローテーション ・圃場別栽培記録 ・春秋のパート導入 ・複式簿記の記帳 ・2年3作	・法人化
【算定根拠】					
<p>農業粗収益 6,286万円 - 農業経営費 4,099万円 = 農業所得 (主たる従事者一名当たり) 2,187万円 (546万円)</p> <p>1 品目 (品種) 5 所得率 34.8%</p> <p> 水稻 (コシヒカリ、ふさおとめ他) 6 単位規模当たりの労働時間</p> <p> 麦 (さとのそら) 水稻 11.8時間/10a</p> <p> 大豆 (サチユタカ、フクユタカ) 麦 7.6時間/10a</p> <p>2 規格 大豆 7.6時間/10a</p> <p> 水稻 (コシヒカリ20ha、ふさおとめ他20ha)</p> <p> 麦 20ha、大豆 20ha</p> <p>3 生産量 7 一時間当たりの雇用労賃</p> <p> 水稻 549kg/10a 1,000円</p> <p> 麦 300kg/10a 8 借入地面積</p> <p> 大豆 210kg/10a 51ha</p> <p>4 単価 9 10a当たり地代</p> <p> 水稻 212円/kg 12,500円</p> <p> 麦 23円/kg 10 その他</p> <p> 大豆 96円/kg 各種助成金 34,000円/10a</p>					